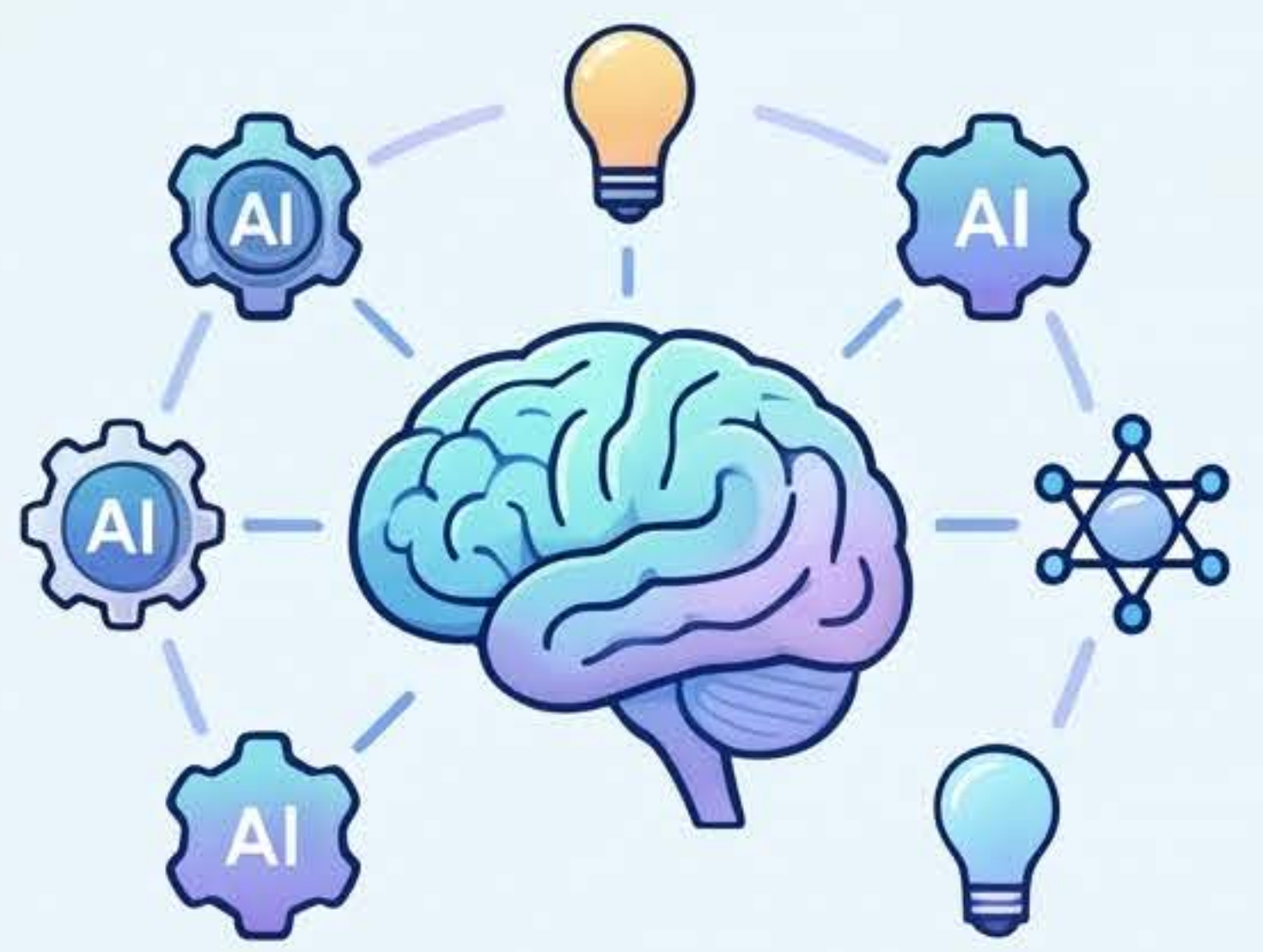


生成AIによる発明支援の進化：2025年 vs 2026年

2025年：発想支援と自動化の幕開け



アイデア生成と複数AI活用の登場
複数AIの利用や、特許番号から事業アイデアを導くデモが既に行われていた。



文書作成・調査の効率化
発明提案書の作成支援や、図面・化学式への対応など、文書化支援が中心だった。

2026年：実務プロセスへの具体化と統合



「AI同士の議論」による発想の構造化
AI同士が議論し、基本特許から役割の異なる周辺特許群を数分で生成する。

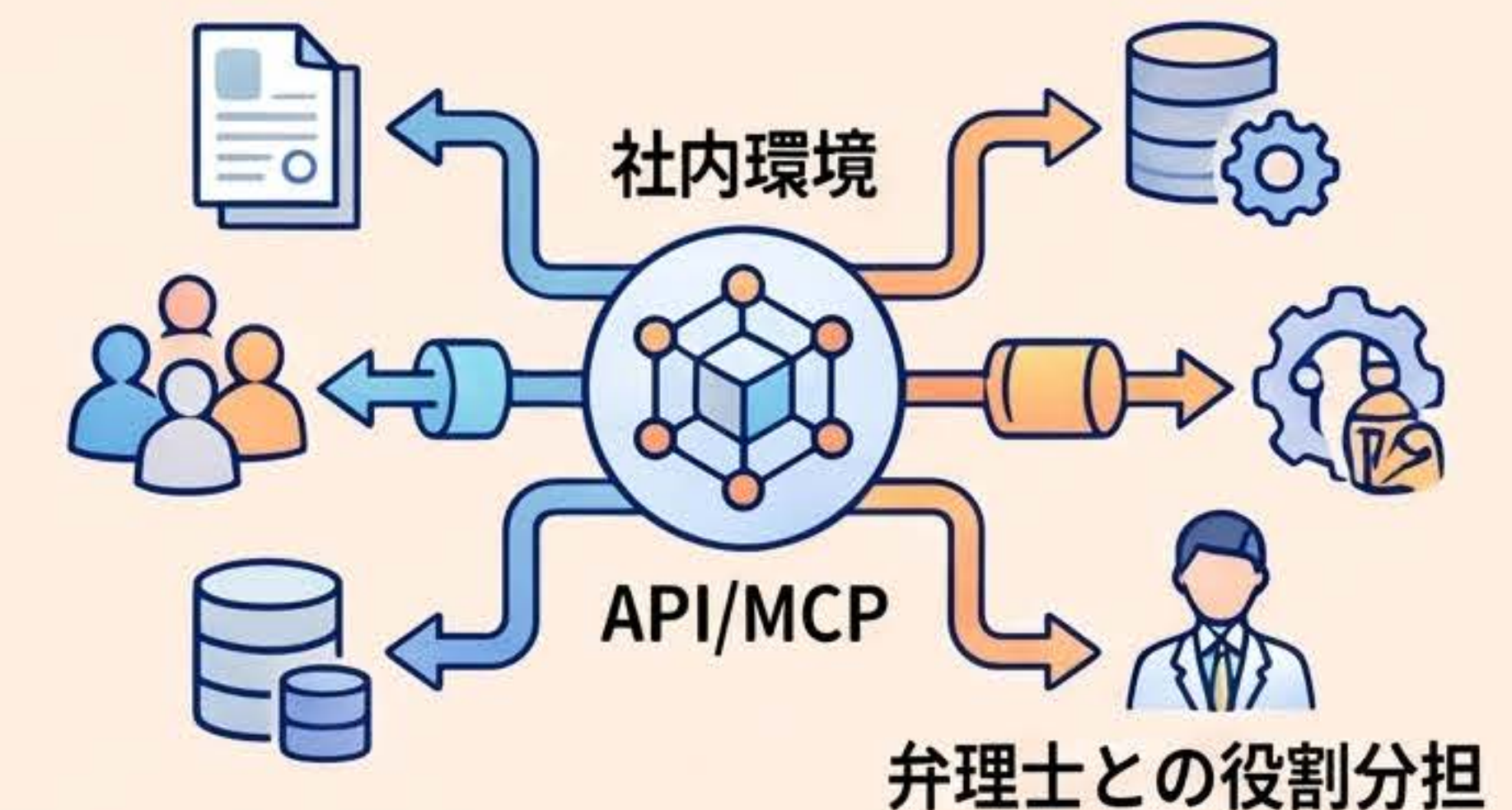


人の工夫を掘り起こす対話型支援
単なる自動生成ではなく、対話を通じて研究者の潜在的な工夫を引き出す。



事業化への初期的な接続
保有技術を起点とした新規事業のテーマ抽出などが試行されていた。

機能的な重点の変遷			
2025年		2026年	
 アイデア提案、事業構想	アイデア発想	構造的生成 	
 アイデアからの提案書作成	提案書作成	対話的発掘 	
 特許DB、AIエージェント	データの連携	システム統合 	



組織・既存システムへの統合
APIやMCPを通じた社内環境との接続、弁理士との役割分担が明確化された。